

2018年度第3回渉外総務委員会・産業情報委員会合同会議会議録

本会議は、予定通り開催し、その概要は以下の通りでした。

- 1 日時及び場所 2019年2月6日(水) 16:30～
公民センター・1F会議室
- 2 出席者 野水会長、日色副会長
(渉外総務委委員) 秋山委員長、石毛委員、木村委員、中根委員、石上委員
(産業情報委員) 駒村委員長、高橋委員、徳丸委員、太田委員
(事務局) 染谷事務局長、塚原
- 3 議事事項
(本委員会は、合同会議であることから、野水会長が議事進行を務めた。)

以下の議事事項3件について、染谷事務局長から個別に説明の後、質疑に入り、すべて了承された。

1) 産学連携に係る協定締結の件

産学連携においては、本年度の新規事業として計画しており、過日(1/24)、当協議会3役と日本大学生産工学部との協議を行い、今年度中に協定を締結することとなりました。

つきましては、以下の内容により進めることとし、次回の理事会(2/20)に議事事項として提案することとする。

- ・ 目的：大学及び各企業における知的資源、人材資源、物的資源、機会(情報)資源などを相互に活用し、会員企業の様々な課題の解決を図り、技術の向上、新技術の研究開発、人材の育成・確保、経営改革などの一助とする。
なお、大学においては、学術研究の促進、学生の育成、インターンシップの活用などの効果が見込まれる。
- ・ 提携の相手方：日本大学生産工学部(習志野市)
* 今後も県内にある大学との協定締結を理系・文系を問わず進める。
- ・ 提携・協力事項：以下のとおりとする。
 - ① 企業からの技術等の相談対応に関する事
 - ② 企業等からの経営革新、技術開発及び商工農などの企業間連携など、共同研究等の推進に関する事
 - ③ 大学発ベンチャーの推進・支援に関する事
 - ④ インターンシップに係る学生の受入れに関する事
 - ⑤ 学生と企業間の就職活動に係る取組みの推進に関する事
 - ⑥ 調査、セミナー等への企画・実施に対する教員、学生、及び授業、研究会等への乙の会員やその傘下企業等の参画に関する事
 - ⑦ その他産学連携活動に寄与する事項の推進に関する事
- ・ その他：別添協定書(案)のとおり。

《主な質疑》

- ・日本大学生産工学部を選んだ理由は。
産学連携については、県内の大学との連携協定を基本とし、理系、文系にとらわれず複数の大学との協定締結を目指すこととしており、今回は、白井工業団地の業態から先ずは、ものづくりという観点から進めたものである。
また、染谷事務局長の人脈もあり、コンタクトしたものである。
- ・インターンシップの受け入れ態勢は、どのように進めるのか。
大学側からは、基本2週間の受け入れを求められている。土木、建築関係は、20日間となる。受け入れは、多種多様な業種の企業が参加する白井工業団地協議会が窓口となって、各社に紹介し、選定した後、大学側と調整をする予定である。
大学側からは、実際に現場での実習（実務）をしてほしいとの要望がありますので、危険防止・安全対策や保険加入などを含め、受け入れ態勢を今後調整していく。
*当工業団地には、多種多様な事業所があり、インターンシップを行う学生にとっては、大きな魅力となると大学からは期待されている。
- ・大いに期待しているので、着実に進めてほしい。

2) 理事会等の組織及び運営等に関する規程の制定の件

第5回理事会において、協議事項として提案しましたが、その後各理事等から意見等がありませんでした。

つきましては、別添（案）のとおり次回の理事会（2/20）に議事事項として提案することとする。

3) 2019年度の新規事業の件

当協議会は、これまで会員企業の親睦・交流・連携に関する事業、白井工業団地における交通・公害等環境対策に関する事業、労働安全に関する事業、従業員の福利厚生に関する事業などを共同して行ってきており、白井工業団地の活性化と地域経済の発展に寄与してきました。

今後もこれらの事業を継続、拡充していくとともに、さらなる発展を図るため、地域貢献（交流）・支援事業を加え、一般社団法人白井工業団地協議会（白井工業団地）が地域に根差した貢献する団体として、広く認知され、かつ必要とされる有益な団体となることを目指し、以下の事業を新たに行うこととする。

I キャリア教育支援事業の創設（2019年度実施予定）

目的：①地域に貢献する白井工業団地の知名度向上を図る。

②継続的な地元人材の確保に資する。

③地域社会との交流を推進する。

④企業の地域貢献による地域の活性化を支援する。

⑤その他

事業：市内中学校（5校）へのものづくり、起業化などを含めた社会人・

職業人として生きるキャリア教育に関する授業、取り組み等に対する助成制度を創設する。

助成額：1校当たり100,000円を上限とする。

基本額を1校当たり80,000円とし、生徒数や授業内容によつ

て20,000円を限度に加算する。

対象経費：消耗品、教材費、講師謝礼、通信費、交通費、食料費（限度額有り）、備品購入費（事前承認を要す）、印刷製本費、その他必要な経費

条件：①キャリア教育の一環であること。

②授業（事業）の公表、成果の発表等を行うこと。

③助成事業について、学校だよりなどに掲載し、広く周知すること。

④学校行事に当協議会の役員等を招くこと。

⑤その他

その他：当協議会で協力する事項について

①工場見学、体験学習の受入れ

②講師の派遣（各企業の紹介や経営理念などの説明など）

③その他資料や製品等の提供など

II 夏祭りの支援拡充（2019年度関係者協議、2020年度実施予定）

現在、夏祭りは、地元の白井工業団地自治会と共同して実施していますが、自治会会員の高齢化や会員の減少等によりこれまでのような体制が維持できなくなっています。

この夏まつりは、長年にわたり地域の大事なコミュニティイベントとして、また白井工業団地との交流の場として行われてきたことから、これを絶やさず、かつ活性化することが今後の使命となってきました。

当協議会においては、これらの課題を解決し、当協議会が中核となって地域交流を進めることが地域から求められていると捉えております。

このことから当協議会では、交流範囲を白井工業団地が関わる周辺自治会（白井第2小学校区全体・10自治会）に拡大し、市のまちづくり施策との協働化を図り、今後の夏祭りの開催にあつては、白井工業団地（当協議会）を中核とした関係自治会と協働で運営する仕組みを新たに構築する必要がある。

具体的には、経費については、市の助成制度の活用と各自治会や地区社会福祉協議会等の関係団体にも一部負担を広く求めるとともに、協力人員（団体）については、各地区の役員及び地元消防団等の応援を得るなど協力体制を整備し、また、会場については、小学校の参加も得て、地域の中心となる白井第2小学校を利用し、より多くの参加ができるようにするなど、広く参加・協力を求め、関係団体等による実行委員会を組織し効率的で負担の公平化、経費の節減などを図りながら取り組むこととする。

将来的には、この実行委員会の取り組みを拡充し、その他の地域交流事業を展開するなどし、地域から必要とされる地域に根差した、また地域に貢献する白井工業団地協議会となることを目指す。

III 優良事業所等視察研修会の再開（2019年度実施予定・隔年実施）

優良事業所等の視察研修会については、数年前から中止していますが、視察研修会は事業活動の改革や経営の改善等に役立つものであるとともに、参加会員間の交流も促進することから、これを再開し、積極的に優良事業所、研究所、試験場などの視察を行うものとする。

なお、日程は、日帰りで実施し、参加できなかった会員にも情報を発信し、成果を共有することで、会員の経営向上などの一助とする。

《主な質疑》

キャリア教育の支援関係

- ・白井工業団地があまり知られていない、また良いイメージを持っていないようだが、これをどうしていくのか。

白井工業団地には、日本を代表する企業や最先端の技術を有する企業などがありながら、市民に知られていないのは残念です。こういったことから、中学校のキャリア教育を通じて、子どもの頃から地元の工業団地には、面白い会社があることを知ってもらい、5年、10年後にその子供たちが社会に出て活躍する場として、この工業団地にも目を向けてもらうことを期待している。また、保護者や先生方にも白井工業団地の良いところを知ってもらう機会としていきたい。

- ・各事業所としての協力は、何をするのか。工場見学では、危険な場所や特殊な資材を使用しているところもあるが、その対応は。

中学生が対象となるため、安全な場所での見学や会議室等での説明、PRビデオの視聴及び軽作業などを考えている。子供たちの安全は、最優先です。

- ・立春式事業との兼ね合いは、どのように考えているのか。

市では、立春式事業として職場体験を2日程度で行っているが、これとは別のものとして、ものづくりや起業などのキャリア教育という観点での取り組みを支援するものである。

また、この立春式により工業団地でも職場体験を受け入れた実績がありますので、これを発展させる仕組みとしたい。

- ・5つの中学校はどこか。

白井中、南山中、大山口中、七次台中、桜台中学校です。なお、小学校は、市内に9校あります。白井第2小学校からは、本年度キャリア教育の一環として工場見学の要請があり、受け入れています。

- ・予算は、確保できるのか。

年間最大で50万円の予算が必要となりますが、今年度、取り組んで来た事務事業のスリム化、効率化により十分確保できると捉えています。

- * 当協議会では、大学との産学連携と中学生のキャリア教育の支援を通しで、将来に渡る人材の確保、育成ができればと考えており、現在、白井高校ともキャリア教育や就職関係の協議を進めることとしており、体系的に各事業を進めていくこととしています。

夏祭り関係

- ・会場が変わるのか、またどの程度の規模になるのか。

会場は、現在公民センターの駐車場で行っていますが、見込みで約300人が来場していると捉えており、手狭となっています。

今後、1年をかけて関係団体や小学校などとも協議をし、白井第2小学校において開催したいと考えている。来場者は、第2小学校区全体を対象とするので、500人以上と予想しています。

- ・どれくらいの自治会が参加するのか。

白井工業団地自治会、中、河原子、平塚、名内、冨塚など10地区程度と考えている。また地区社協やPTA、消防団などにも協働をお願いしたいと考えています。

これにより地域との多様な交流が図れば工業団地と周辺地区の融和が促進されると捉えている。

- * 2020年の夏祭り事業については、当協議会の50周年に当たることから、記念事業としても取り組んでいきたいと考えている。

視察研修関係

- ・他の団体でも実施しているが、それとの差別化は。

船橋労働基準協会や千葉県内陸工業連絡協議会においても実施していますが、それぞれの趣旨・目的に合った視察となっていますので、当協議会が行う場合は、各会員企業が必要とするもの、有益なものにして行きます。また、社会経済情勢やIT、IoTなどの推進に合わせたものを選定しながら進めたいと考えております。

さらに、会員間の情報交換や交流を図るためにも必要な事業として、隔年で実施をして行きたいと考えています。

4 その他（会長、副会長から）

これからの協議会は、会員のための事業をさらに拡充するとともに、地域交流・地域貢献などにも尽力していくこととしていますので、皆さんからも新たな取り組みの提案をしていただきたい。

また、そのためには、ブロック会議、委員会、理事会などの会議を充実していきますので、ご協力をお願いしたい。

5 閉会